

日本地衣学会

No.134

ニュースレター

Newsletter from the Japanese Society for Lichenology

目次	会務報告	499
	日本地衣学会第15回大会報告/川上 紳一	499
	写真館	502
	タカハシゴンゲンゴケの偽根/原田 浩	502

会務報告 *Report of the JSL Activities*

日本地衣学会第15回大会報告

Report of the 15th Annual Meeting of JSL at Gifu, July 2016/ by KAWAKAMI Shinichi

>>>>> 川上 紳一 (第15回大会実行委員長)

日本地衣学会第15回大会を以下のとおり開催したので、報告します。なお、青空地衣教室については、別途報告する予定です。

* * *

日時 2016年7月16日(土)~17日(月, 祝)

場所 岐阜大学教育学部

参加者 31名(一般会員24名, 学生会員6名, 他1名)
(青空地衣教室を除く)

7月16日(土) [July 16 (Sat)]

10:00 - 12:00 評議員会 Council Meeting of JSL

13:00 - 14:00 総会 General meeting

14:20 - 14:40 一般講演 Oral presentation(別記2)

15:20 - 17:45 シンポジウム「ゲノム科学と地衣学研究」Symposium "Genomics and Lichenology" (別記1)

懇親会 Banquet

7月17日(日) [July 17 (Sun)]

9:30 - 11:50 一般講演 Oral presentation(別記2)

13:00 - 14:00 一般講演 Oral presentation(別記2)

14:15 - 14:45 岐阜県の地衣類相 (18日開催青空地衣教室概要紹介) Lichen flora of Gifu (Introduction to the Excursion "Outdoor School on Lichens", July 18 (Mon))

7月18日(月・祝) [July 18 (Mon)]

9:00 - 14:00 青空地衣教室 the Excursion "Outdoor School on Lichens" (別途報告)

* * *

(別記1) シンポジウム

7月16日(土), 15:20-17:50

シンポジウム「ゲノム科学と地衣学研究」 Symposium "Genomics and Lichenology"

15:20-15:25 シンポジウムの趣旨について/ 川上紳一 (岐阜聖徳学園大学)

[S1] 細胞性粘菌のゲノム, 種分化, 共生, ゲノム解析

について/ 桑山秀一(筑波大)

[S2] 地衣化菌類のゲノミクス・トランスクリプトミクス/ 嶋田葉子(総研大)

16:45-16:55 休憩 Coffee break

[S3] 地衣類のゲノム解析の現状と展望/ 原光二郎(秋田県立大)

17:35-17:50 総合討論

(別記2) 一般講演

7月16日(土), 14:20-15:00

[1] 樹状地衣菌ヒメレンゲゴケにおける培養速度の改善/ 堀江直矢(関西大学)・河原秀久・六車日香里

[3] A new potential UV filter, 5-hydroxymellein isolated from endolichenic fungus/ Zhao, L., and J.-S. Hur (Suncheon National Univ., Korea)

7月17日(日), 9:30-11:50

[4] ゴンゲンゴケ属地衣類の成分分析/ 川上寛子(秋田県立大学)・原光二郎・小峰正史・山本好和

[5] ベトナム産地衣類より単離培養した地衣菌の代謝物の多様性/ 竹仲由希子・Duy Hoang Le・棚橋孝雄(神戸薬科大学)

[6] LC/MS および LC/MS/MS 分析による地衣類含有成分の同定と地衣類分類への応用/ 木下薫(明治薬科大学)・木原淳・坂田歩美・吉川裕子・原田浩

[7] 日本産樹皮着生フシアナゴケ属 *Mazosia*(ソバカスゴケ目リトマスゴケ科)地衣類の分類学的研究/ 坂田歩美(千葉県立中央博物館)・原田浩

[8] 日本産樹皮着生広義スミイボゴケ属 (*Buellia* s. l.)地衣類の分類学的研究(その3). *Amandinea* と *Sculptolumina*/ 綿貴攻(秋田県立大学)・原田

浩・原光二郎・小峰正史・藤晋一

[9] 房総の地衣類誌. - 千葉県における地衣類多様性解明の試み/ 原田浩(千葉県中央博物館)

13:00-14:00

[10] EI-MSによる地衣類縁種の分類法の検討(第2報)/ 甲斐久博(九州保健福祉大学)・木下薫・植沢芳広・原田浩・前田明寛・岡田嘉仁・高橋邦夫・松野康二

[11] 廃止鉱山地域に自生する樹状地衣の土壤重金属汚染環境指標としての有用性/ 末岡裕理(愛媛大学)・榎原正幸・佐野栄・大藤弘明

[2] *Ramalina conduplicans* から単離されたポリオール輸送体遺伝子の解析/ 吉野花奈美(千葉大学)・園田雅俊・坂本一憲・山本好和

* * *

1日目は、総会にて、2015年度事業報告、2016年度の事業計画等の報告がなされました。審議事項では、会員の消息、会費納入の効率化などについて話し合われました。その後、地衣類二次代謝物質の利用を念頭において、成長速度の遅い地衣菌の培養方法の改善や紫外線吸収物質に関する一般発表がありました。

シンポジウム「ゲノム科学と地衣学研究」が開催されました。このシンポジウムは、第15回大会準備委員会が企画したもので、地衣類の分類学的研究や、地衣成分の研究において、ゲノム解析やゲノム情報の役割



図1. シンポジウム.



図2. 懇親会.

が今後ますます重要になることから、周辺分野の研究者との連携や異分野融合を促すことを目指したものです。招待講演者桑山秀一（つくば大学）は、細胞性粘菌の生活環、共生、ゲノム解析に関する研究の現状を紹介しました。颯田葉子（総合研究大学院大学）は、地衣菌と藻類の共生関係に注目して、共生関係が成立したことによって、どのような遺伝子レベルでの変化が起こるのかについて論じ、関連する重要な論文を紹介しました（図1）。原光二郎（秋田県立大学）は、地

衣類のゲノム解析の方法を含めて研究の現状を紹介し、比較ゲノミクス、メタゲノミクス、機能ゲノミクスにおけるトピックスを紹介しました。

懇親会は、岐阜大学の第2生協で開催され、28名が参加されました（図2）。岐阜市の銘酒「達摩正宗」の3年古酒などの差し入れがあり、料理やお酒を楽しみながら、活発に議論する参加者の姿がみられました。

2日目には、一般講演9件の発表がありました（図3）。川上寛子（秋田県立大学）は、ゴンゲンゴケ属地衣類については従来から成分分析に基づいた分類がなされていたが、LC-MS分析などを用いた高感度分析を行った結果、分類のための評価基準の再検討が必要なることを示しました。木下薫（明治薬科大学）もLC-MS、LC-MS-MS分析による地衣類含有成分の同定とその分類学への応用について発表しました。綿貫攻（秋田県立大学）は、スミイボゴケ属について、形態分析、化学分析、分子系統解析を行って、スミイボゴケ属と近縁な分類群も含めて、検討が必要なることを明らかにしました。これらの研究は、地衣類の分類学的研究や二次



図3. 研究発表.

代謝物質の研究に、化学分析やゲノム解析の重要性を示唆するものでした。吉野花奈美（千葉大学）は、地衣菌と共生藻の共生関係において、共生藻から地衣菌にリビトールという糖が輸送されることに着目し、分子生物学的手法でリビトール輸送遺伝子を明らかにしました。最後に、18日の第40回青空地衣教室の概要説明を含めて、川上紳一（岐阜聖徳学園大学）が岐阜県の自然環境と生育する地衣類を紹介しました。

奨励賞の授賞式では、石原峻氏（名古屋大学大学院）と吉野花奈美氏（千葉大学大学院）の2名が受賞しました。そして会長の挨拶で大会が締めくくられました。

最後に、本大会は、日本地衣学会と岐阜大学の共催



著者（大会実行委員長）

として開催させていただきました。開催に当たりご協力いただきました関係者ならびにご支援をいただいた方々、参加された会員の皆様に厚くお礼申し上げます。

写真館 Photo Gallery

タカハシゴンゲンゴケの偽根

Rhizines of Hypotrachyna pseudosinuosa dichotomously branched/ by HARADA Hiroshi

>>>原田 浩（千葉県立中央博物館）

ウメノキゴケ科のゴンゲンゴケ属 *Hypotrachyna* の偽根は、二又分枝するのが特徴です。本属の *H. pseudosinuosa* (Asah.) Hale が、ウチキウメノキゴケ属のコフキチヨロギウメノキゴケ *Myelochroa metarevoluta* (Asah.) Elix & Hale に似ていて間違えやすいですが、偽根をよく見てみましょう。写真のように盛んに二又分枝しています。



●複製される方へ

本誌に掲載された著作物を複製したい方は、許諾を受けてください。詳細は本誌 102号 378 ページに。

●Notice about photocopying

In order to photocopy any work from this publication, you or your organization must obtain permission. For details, see No. 102, p. 378 of this publication.

● *Newsletter from the Japanese Society for Lichenology*, no. 134, pp. 499-502; eds. Kinoshita K., Komine M., Nakashima H., Bando M., Kawakami H. & Harada H., published by *the Japanese Society for Lichenology*, 3 Sept. 2016.

日本地衣学会ニュースレター 134号

発行日：2016年 9月 3日

編集：木下薫・小峰正史・中嶋裕之・坂東誠・川上寛子・原田浩

発行者・発行所：日本地衣学会

〒658-8588神戸市東灘区本山北町4-19-1

神戸薬科大学 薬化学研究室

©2016日本地衣学会 (© 2016 The Japanese Society for Lichenology)

本誌記事の著作権は日本地衣学会に属します。無断転載・無断複写等は固くお断りいたします。